

聖典学習会

『教行信証』に学ぶ 第27回 (最終回)

《前回の講義より-スタッフ聞書》

悲歎という言葉がございますが、悲しみは、必ず讚歎として立ち上がること。それが悲歎ということなのですね。そうでなかったら落ち込むだけの話になりますよね。この「歎」という字は『歎異抄』の歎という字ですが、『歎異抄』というのは立ち上がった書、唯円は立ち上がったのです。『正像末和讃』の「如来の遺弟悲泣せよ」とは、親鸞聖人は、そこで沈んでいかれたのではないでしょう。

「如来の遺弟悲泣せよ」と立ち上がられた。そこを私たちは忘れてはならないと思うのです。ですから『正像末和讃』を見ておきますと、そういうお言葉が何カ所か出てきますよね。「如来の悲願を信ぜずば 出離その期はなかるべし」(『真宗聖典』五〇一頁)と。阿弥陀の本願に遇わせていただかなかったら、私たちが生死を出離するということができるのだろうか。それから「如来の回向をたのまねば 無慚無愧にてはてぞせん」(『真宗聖典』五〇九頁)と。如来の回向に浴くさなかったら、結局私たちは仏法を聞いてもお恥ずかしいで終わってしまう、暗い世界で終わってしまうのですよね。そうではない。悲しみ、歎く、この現実。だからこそ、私たちにとって「弥陀の本願信ずべし」と、阿弥陀の本願に生きる以外にどこに私たちの生きる道があるのでしょうかと、親鸞聖人は叫び挙げておられるのではないのでしょうか。だから「悲歎」ということは、決して落ち込んだ話ではないのです。立ち上がった相を表しているということ。これを私は、皆さん方に、ぜひご注意をいただきたいと思うわけでございます。

日 時 第27回 2014年5月30日 (金)

受付 12時半～／開会 13時～／閉会 16時

会 場 東本願寺 真宗会館 講堂

(東京都練馬区谷原 1-3-7 Tel.03-5393-0810 担当: 橘・斉藤)

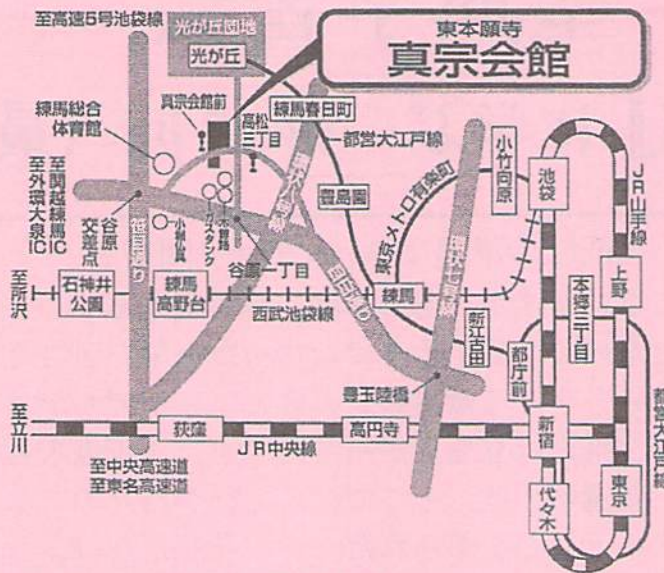
講 師 池田 勇諦 先生 (同朋大学名誉教授)

参加費 1,000円 (当日受付にてお納めください)

持参品 『真宗聖典』

主 催 東京教区教化委員会

交通案内



- 西武池袋線・都営大江戸線「練馬駅」(北口)より西武バス^{練42}成増町行(谷原2丁目経由)約15分、「高松三丁目」下車徒歩1分
 - 西武池袋線「練馬高野台駅」(北口)よりタクシーで約5分
 - 都営大江戸線「光が丘駅」よりタクシーで約5分
 - 環八「谷原(やはら)交差点」より車で約1分(旧目白通り・谷原ガスタンク裏)
- タクシーご利用の場合は、「谷原(やはら)のガスタンク裏『東本願寺真宗会館』まで」と運転手に指示してください。

聖典学習会講義録のご案内

『教行信証に学ぶ』(一)～(六) 頒価 各500円

ご購入のお問い合わせは真宗会館(担当: ^{おいはら}菴原)まで

【2014年5月30日(金)第27回聖典学習会参加用紙】

組 _____ 所属寺 _____

氏名 _____ 受付番号 No. _____

(※受付番号がある方のみ記入してください)

※この枠内は初参加の方のみ記入してください(※次回からの案内を送付いたします)

〒
住所

電話番号

この用紙を当日受付に提出してください(事前申込は不要です)